

「 土砂災害に関する対策 」

長野県 岡谷市立湊小学校 6年 向山 千穂

土砂災害とは、山やがけがくずれたり、くずれた土砂が雨水や川の水と混ざり合い、町や住宅街に流れてくる災害の事だ。これにより、建物を押しつぶしたり、車が流されたりと、大きな被害をもたらす。この災害「土砂災害」は私たちと大いに関係している。そして、私たちは常に危険ととなりあわせなのである。

土砂災害とは、いつ、どこで、どのように起こるか分からない。だから、土砂災害から身を守るためには、自分たち一人一人が土砂災害に対して、日頃から備えておくことが重要と考える。この重要さを知っていても、行動に起こさないと意味がない。だが、どのように備えたら良いのか分からない人も多いと思うため、土砂災害から身を守る対策方法をたくさん教えた方が良く考え、紹介する。1つ目は、自分が住んでいる所が、土砂災害警戒区域に建っているか確認する事である。確認ができる物は自分が住んでいる区や市まで入っている地図だ。自分の家が山の方に近い場合、自分の県の山のことについて書かれているハザードマップとさっきの地図で見比べる。自分の家が川や海の方に近い場合、川の事について書かれているハザードマップを見る。これをする事で、避難所や通行道に気を配ることができ、より安全なところが見つかるのだ。2つ目は土砂災害に関する情報や、大雨の情報に注意する事だ。大雨などの情報は最新のニュースなどで見ることができる。最新ニュースをこまめに見ることで、雨の降水量も分かるから、この後どのような行動を取れば良いかが分かりやすいのだ。他にも天気予報などを見て、注意が必要な時は、避難所へにげる前に避難後に必要な持ち物の確認ができるのだ。3つ目は、土砂災害の警戒情報が分かるアプリを入れておく事だ。特によく使う機器に入れた方が良く考える。なぜなら土砂災害はいつどこで起こるか分からないからだ。このような理由で、常に持っている機器イコールよく使う機器で、よく使う機器に入れた方がより良いと考えた。このようなアプリをつける事で降水量や川の状況を見たい時に見る事ができる。しかも、予報も見たい時に見る事ができるため、にげる準備がいち早くできるのだ。4つ目は自分がいざという時のために、避難所を決めておく事だ。これをする事で、災害が起きた時に避難所の確認をして、自分がにげおくれてしまう可能性があるのを低くする事ができるのだ。5つ目はハザードマップを見て、危険な場所、道を確かめることだ。これをする事で危険な道や場所が分かり、災害時、歩けなくなっている場所を避けてにげる事ができるのだ。しかも、時間のタイムロスを防ぐことができ、命を落とす可能性を低くすることができるのである。6つ目は非常食を買うなど、避難した後に必要な日用品をそろえる事だ。日用品や非常食は個人差が出るため、細かく説明するのが難しいが、基本的に非常食はスーパーなどで非常食と書いてある食べ物や水を買って、日用品は自分が通常時に使う物を家にある物を避難所へ持って行き、避難所で使うという感じだ。最低限、日用品や非常食を用意することで、避難した後の事にこまらず、避難した後に必要な物をそろえておく。そして、季節が変わるごとに必要な物が変わってくるため、こまめに確認したほうが良いと考える。

土砂災害は建物を押しつぶしたり、流したりし、人の命をうばってしまう可能性があるから私たちは常に危険ととなりあわせなのである。そして、この土砂災害はいつ、どこで、どのように起こるか分からないため、常ににげるための準備をしていなければならない。そこで、さっき紹介した6つの対策をする事で、土砂災害に対して余裕をもつ事ができるのである。